

## 6.2 4分野共通の概況

### (1) 調査対象患者の概況

調査対象となった患者のうち、平成18年4月以降にリハビリテーション料の算定を開始した患者の概況は次のとおりであった。

算定日数上限の除外対象疾患に該当する患者の割合について、病院においては、脳血管疾患等リハビリテーション(37.0%)が最も多く、次いで運動器リハビリテーション(9.0%)となっている。診療所においては、呼吸器リハビリテーション(83.3%)が最も多く、次いで脳血管疾患等リハビリテーション(53.6%)となっている。

現在算定しているリハビリテーション料の算定対象疾患以外に疾患・障害を有している割合について、病院においては、呼吸器リハビリテーション(49.0%)が最も多く、次いで脳血管疾患等リハビリテーション(34.8%)となっている。診療所においては、呼吸器リハビリテーション(100.0%)が最も多く、次いで心大血管疾患リハビリテーション(83.3%)となっている。

現在のリハビリテーション料を算定する前に、過去(平成18年4月以降)にリハビリテーション料を算定していた患者の割合について、病院においては、呼吸器リハビリテーション(24.0%)が最も多く、次いで運動器リハビリテーション(20.2%)となっている。診療所においては、呼吸器リハビリテーション(100.0%)が最も多く、次いで運動器リハビリテーション(30.1%)となっている。

調査時点での患者のリハビリテーションの段階(病院)について、心大血管疾患リハビリテーションは「急性期」(54.8%)が最も多く、次いで「回復期」(22.9%)となっている。脳血管疾患等リハビリテーションは「維持期」(47.3%)が最も多く、次いで「回復期」(33.6%)となっている。運動器リハビリテーションは「維持期」(38.3%)が最も多く、次いで「回復期」(35.7%)となっている。呼吸器リハビリテーションは「急性期」「維持期」(38.5%)が最も多く、次いで「回復期」(20.5%)となっている。診療所については、心大血管疾患リハビリテーションは「維持期」(83.3%)が最も多く、次いで「回復期」(16.7%)となっている。脳血管疾患等リハビリテーションは「維持期」(73.2%)が最も多く、次いで「回復期」(23.2%)となっている。運動器リハビリテーションは「維持期」(50.0%)が最も多く、次いで「回復期」(35.5%)となっている。呼吸器リハビリテーションは「維持期」(91.7%)が最も多く、次いで「急性期」(8.3%)となっている。

調査時点での患者の状態の評価として「身体機能の改善の見込みがある」患者に割合について、病院においては、心大血管疾患リハビリテーション(63.8%)が最も多く、次いで運動器リハビリテーション(40.6%)となっている。診療所においては、心大血管疾患リハビリテーション(83.3%)が最も多く、次いで運動器リハビリテーション(47.2%)となっている。

調査時、「介護の必要はない」と回答した患者の割合について、病院においては、心大血管疾患リハビリテーション(57.2%)が最も多く、次いで運動器リハビリテーション(46.7%)となっている。診療所においては、運動器リハビリテーション(69.6%)が最も多く、次いで呼吸器リハビリテーション(28.6%)となっている。